

農業用遮光シートを利用した産卵基体の効果

臼杵 崇広

◆背景・目的

ホンモロコの産卵期間中における湖水位操作が改善されても一部の産着卵では干出が懸念される。この干出による影響を軽減するための方策を検討する。

◆成果の内容・特徴

- 西浅井町地先の主要産卵場である天然ヤナギの前面に農業用遮光シートを利用した水位変動に対応可能な産卵基体(2m×12.5m、シート4層構造)(図1)を平成20年4月28日に設置し、7月30日までおよそ週に1回の頻度で産卵状況を調査した。なお、産卵基体を設置した地点の岸側の天然ヤナギでは同様の調査を4月3日から行った。
- 産着卵は天然ヤナギでは5月9日から6月19日まで、産卵基体では5月22日から7月10日まで確認され、産卵のピークはともに6月中旬であった(図2)。
- 総産着卵数は天然ヤナギでは8.0万粒、産卵基体では6.5万粒と推定された。
- 産卵期間中の天然ヤナギにおける産着卵のうち、調査日の7日後までの間に1日でも水面上に位置し干上がって死亡した可能性があると考えられた卵の割合は58.8%と推定された(図3)。
- 産卵時期がずれるため厳密には単純に比較できないものの、産卵基体に産み付けられた6.5万粒のうち、天然ヤナギに産卵していれば干出した可能性があった3.8万粒が救われたと推定され、作成した産卵基体には一定の卵干出軽減効果があると考えられた。

◆成果の活用・留意点

遮光シートを利用した産卵基体を現場で活用するためには、産卵基体に付着する汚れへの対策の検討、さらに効果的な産卵基体の検討などが必要である。



図1. 設置した産卵基体.

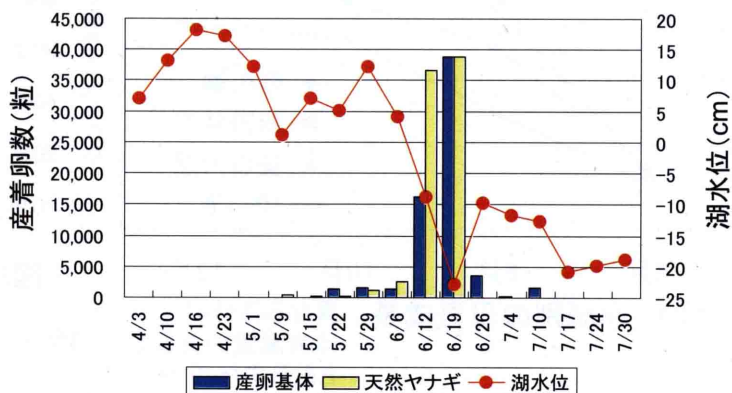


図2. 調査期間中の産着卵数と水位の推移.

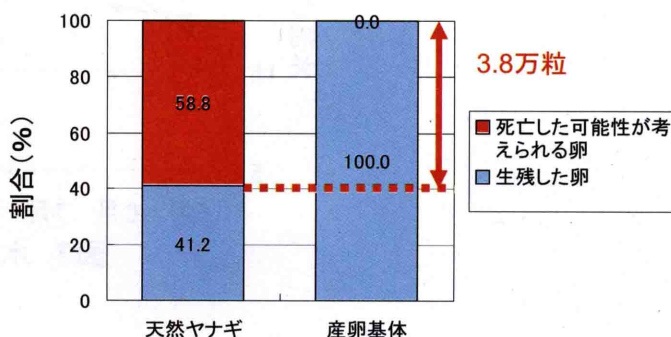


図3. 卵位置から推定した産卵基体ごとの卵の干出状況.